

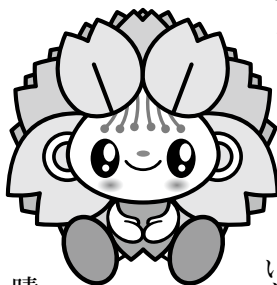
大村市制施行 70周年を祝って



県知事、長崎市長、中華人民共和国駐長崎総領事、姉妹都市である兵庫県伊丹市長、秋田県仙北市長をはじめ多数の来賓、招待者をお招きして、「大村市制施行70周年記念式典」を、さくらホールで行いました。

式典では、市政功労者を表彰し、OMURA室内合奏団が演奏を披露した後、大村市70年のあゆみの映像を放映しました。また、本市出身で大村市顧問である日本経済新聞社参与の杉田亮毅氏に「大村人が世界で活躍するには」と題してご講演いただきました。

ご参加いただいた皆さまのおかげで、大村市の70周年を祝うにふさわしい、すばらしい式典となりました。ご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。今後、70周年を記念したさまざまなイベントを展開していきます。



市政功労者表彰



社会福祉や教育などにご貢献いただいた165の個人、団体を表彰しました。(表彰者は13ページに掲載)

市内外で活動するOMURA室内合奏団が、素晴らしい演奏(春、さくらさくらなど)を披露され、式典に花を添えました。



OMURA室内合奏団の演奏

「大村人が世界で活躍するには」



日本経済新聞社 参与
杉田亮毅 氏

私は世界で活躍する人をつくるには、次の5つが必要だと思います。

1つ目は、自分の国の文化や歴史をきちんと話せる人の育成です。2つ目は、自分の考えをしっかりと話せる人を育てることです。日本人は、国際社会で発言しない傾向にあります。論理を構成し、きちんと相手を説得する能力を養うため、子どもの頃からディベートの強化を図る必要があります。

3つ目は、英語で伝える英語で理解できる人づくりです。

4つ目は、タフな人間の育成です。家庭や学校は競争を回避しがちですが、会社に入社した途端、競争社会に巻き込まれます。それに負けないタフな人材をつくる必要があります。

5つ目は、理科系に強い人間の育成です。日本には資源がありません。科学技術を生かし、新エネルギーを開発できるような人材を育成することが必要です。

いい素材を持った若者はたくさんいます。このような人々を我々が育成しなければなりません。私たちが今やるべきことは、子どもたちが世界で活躍できるよう、人材育成の仕組みを作り上げることだと考えます。(要約)